

答申案の概要（イメージ）

はじめに～審議の背景・目的

- ・粗大ごみ・ペットボトルの増加
- ・環境教育・環境学習推進の必要性

方向と考え方

考えられる取組

1 粗大ごみの減量

1 粗大ごみのリデュースの推進

- 「長く使う」「長持ちする製品の選択」への意識付けと行動促進

- 収集申込時の排出者への働きかけ
- ごみ収集車やカレンダーでの啓発
- 動画配信サービスの充実

2 民間事業者等による不用品リユースの推進

- 「不用品はごみではない」意識付け

- リユースへの意識付け（粗大ごみの名称変更検討等）
- 地域のリサイクルショップ等の情報提供
- 単身者の引越し時、入学・卒業時等の啓発

3 粗大ごみのリユースの推進

- 粗大ごみからのリユース品利用の拡大

- 利再来留館等で展示する粗大ごみリユース品情報の取得利便性の向上
- 関係者と連携した自転車リユースの促進

2 ペットボトルの減量

1 ペットボトルのリデュースの推進

- 「リサイクル」よりも「リデュース」を優先する意識の醸成

- ※付記： ■国レベルの取組・生産者責任の追求
■ペットボトル収集有料化を検討すべきとの意見あり

- 各種情報媒体やキャンペーンによるマイカップ・マイボトルの利用、給水スポットの利用等の啓発
- ペットボトルのリデュースに取り組む事業者に関する情報を市民に発信
- 環境教育・環境学習を通じた地球環境問題・資源循環の必要性への理解

2 多様な回収の促進

- 民間回収の促進によるペットボトル収集量の削減

- スーパーマーケットでの店頭回収の促進
- コンビニエンスストアでのポイント付き回収機設置等、新たな民間回収の促進
- 自販機脇回収ボックスでの回収品質の向上

3 市の分別収集・リサイクル体制の見直し

- カスケードリサイクル（※）よりも水平リサイクルを優先（※）元の製品の品質には戻らず、品質の低下を伴うリサイクル

- 社会状況を踏まえた回収頻度の見直し
- ボトル to ボトルによるリサイクル導入の検討

4 ふじみ衛生組合リサイクルセンター建替期の対応

- 建替期間中の温室効果ガス増大問題への共通認識づくり、対応

- 店頭回収利用など、建替期間中のペットボトル収集量削減協力を市民に呼びかけ
- 建替期間中のペットボトル・容器包装プラスチックの処理方法の経緯や代替措置の説明、必要に応じた追加措置の検討

3 環境教育・環境学習の推進

1 対象に応じた環境教育・環境学習

- 学校教育の各段階における環境教育の充実

- ※共通の考え方：
■環境配慮行動を促すことが大事
■一過性のものにならないよう検証・改善

- 幼稚園・保育園を対象とした出前講座の充実
- ごみ処理施設見学会やごみ探検隊のコンテンツの工夫
- 教育委員会との連携
- 中学生・高校生を対象とした参加型の学習
- 市民向け連続講座の開設

2 効果的な環境教育・環境学習手法の展開

- 市民に伝わりやすい手法、コンテンツの工夫

- 「リサッチョ」の活用、認知拡大
- ごみ減量キャンペーンでの配布グッズの工夫
- 施設見学コースの充実
- ごみ処理施設・リサイクル施設の休日見学開催
- 出前講座や地域イベントでのごみ収集車やチップカーの展示
- ごみ減量・リサイクルポスター募集やエコ川柳募集事業の充実